

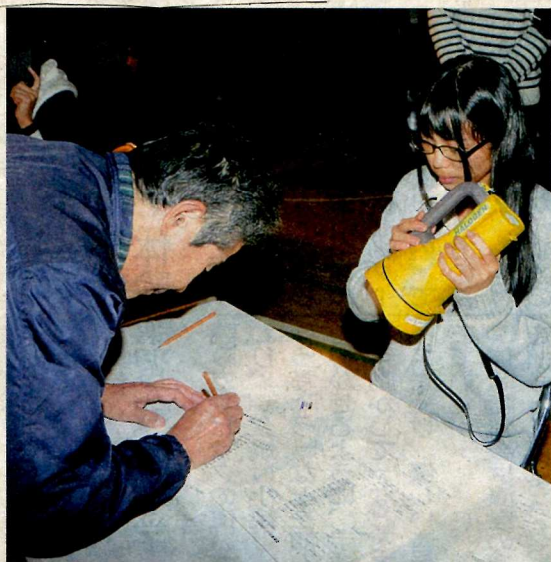
災害時の連携確認

大規模地震想定し訓練 住民と避難所開設

横手高校校定時制

横手市の横手高校校定時制青雲館(古閑秀行校長、100人)は1日、大規模地震を想定した避難所開設訓練を行った。生徒や地域住民、市の防災担当職員ら約200人が参加、市の避難所に指定されている同校体育館で災害発生時の連携と対応を確認した。

地域住民と合同の訓練は今回が3回目。市内で大規模な火災や停電が発生した前提で、午後4時ごろから約1時間実施した。生徒たちは、日頃から取り決めている役割分担に従って、避難者の誘導や居住スペースづくりなどに従



懐中電灯を使って行った避難者名簿の作成



段ボールを使い、生徒と住民が協力して行った居住スペースづくり

事した。訓練中は小型発電機により照明を確保。しかし明るさが不十分なことから、入り口で受け付けを担当した「避難者管理班」は懐中電灯を頼りに避難者名簿を作成、さらに車椅子で高齢者を誘導した。

「施設管理班」や「衛生班」は住民と協力し、居住スペースの間仕切りや簡易トイレを、搬入されてきた段ボールで組み立てた。

受け付けの堀江ゆうなさん(2年)は「妊婦や体の不自由な高齢者が困らないよう、一人一人の状況をしっかり確認したい」と丁寧に対応していた。

2度目の参加という近隣住民の畑忠さん(73)は居住スペースづくりをサポート。「回を重ね役割分担がはつきりし、生徒との連携もスムーズになってきた」と語った。

学生ボランティアとして避難者相談を担当した柴田結衣さん(秋田大学4年)は「万一災害が起きても、避難者が安心できるような声掛けをしたい」と語った。

訓練を統括した細井才智教諭は「生徒も地域の一員という意識を持って臨んでいる。住民の協力を得て今後も続けていきたい」と話した。

(福原斉)